

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア小坂(グループホーム)		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716番地1		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の馴染みのある地域豊かな自然とこれまでと変わらない環境での生活 また四季折々の行事を工夫・計画し楽しみをもって生き生きとした生活が送れるよう努力しています。職員は法人の理念をしっかり理解し意識をもって利用者様の残された力が発揮できるよう支援していきます</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は飛騨川に面し、四季折々の景色が見渡せる自然豊かな場所にある。また、国道沿いにあることから車でのアクセスも良く、周辺の災害時においては、避難場所としての役割も担っている。事業所はいろいろな機能のサービスを運営している法人に属し、併設されているサービス付き高齢者向け賃貸住宅や、小規模多機能型居宅介護の職員と、相互にケアについての知識や技術について、学び合っている。また、事業所間の仕切りが無く、設備の共有も可能であり、利用者の状況に合わせたケアの実践に役立てながら、利用者が生き生きと暮らせるよう支援に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札に理念を記載することで常に理念を意識・共有し介護サービスに努めている	法人全体の理念「地域に根ざす、安らぎ、優しさ、信頼」を、名札に表記し、職員一人ひとりが日々意識すると同時に、来訪者に対しても表明し、理念に基づく対応の実践に務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みのある地域のボランティアの方に年に数回訪問していただき、脳トレ体操・歌謡ショーなど楽しんでいただいている	地域行事への参加や、地域のボランティアの受け入れを年間を通して行っている。また、利用者の作品を地域の文化祭に出展したり、地域の伝統的風習「かんどうち」では、子ども達が事業所を訪れて交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成委員を通じて地域の問題や困りごとなど受け専門職としてのアドバイスをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案頂いた件について会議等で話し合い実施する努力をしている	運営推進会議には、行政担当者、事業所エリアの区長、避難時の協力体制にある地域の区長も参加し、意見交換をしている。今後は、家族の参加も得られるような工夫を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り合い協力関係を築けるよう努めている	行政の担当者とは、運営推進会議で話し合ったり、困難事例を相談している。また、行政主催の研修に積極的に参加し、適切な利用者サービスの提供につなげながら、協力体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は年に2回以上身体拘束について施設内研修等で学習し身体拘束しないケアを心がけている	身体拘束廃止委員会を中心にマニュアルが作成され、計画的な研修を行っている。併設施設とも協力し、適切な対応の徹底に努めている。止むを得ない場合は、原則に基づき、家族の了承と書面での同意を得て、一時的な安全確保をすることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様施設内研修で学習または職員会議で話し合いをし虐待を起さないケアをしている。また虐待防止委員会も設置している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については施設内研修等で学び必要に応じて活用できるよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の方針・内容を説明し利用者や家族の不安・疑問点をお尋ねし理解納得していただけるよう充分説明し契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから利用者・ご家族とのコミュニケーションを大切に信頼関係の構築に努めている	家族の面会時には、コミュニケーションを図りながら、意見や要望を聞いている。来訪機会が少ない家族には、事業所から電話をし、利用者の要望を伝えたり、意見の有無を聞いている。運営についての意見はないが、利用者に関わる要望には迅速に答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出た問題点や意見を話し合い方針を決めている	管理者と主任は、日常的に、職員から相談や意見を聞くよう努め、風通しの良い関係作りを心がけている。常に職員の意見に真摯に向き合いながら、運営に反映させ、人員不足についての要望は、現在検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や勤務態度を把握し評価している。研修などにも参加しやすいようシフトも考慮し向上心をもって働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を設け職員自身が講師となり自己学習の場を設けている。法人以外の研修にも参加できるようシフトなど考慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同法人の管理者・主任職員で定期的に勉強会を実施し問題点の話し合いをしサービス向上の取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報・要望等を入所前に家族より収集し本人が安心して生活できるよう、環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごと・不安・要望をしっかり傾聴し信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前より家族や本人にアセスメントを行いご本人に必要な支援がサービスに反映できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的な立場ではなく本人の人間性や性格等に配慮し同じ目線や立場で介護していくことを常に心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や思いについて家族に意見を伺いながらともに支援しているという、より良い関係が築けられるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見・紅葉ドライブで馴染みのある場所を巡ったり理容・美容の訪問などで馴染みの人との交流が途切れないよう支援に努めている	家族や親戚、地元の知人が、面会に訪れている。個人的な外出は家族の協力で行われ、地元での花見や病院受診時には、利用者の馴染みの場所を通るよう工夫している。また、近隣寺院の住職の法話も継続的に開催されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立することなく良好な関係を保てるよう配慮している。行事やレクリエーション等で各フロアの利用者との交流ができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居の際にはご本人が慣れない環境の変化に対応できるようサマリーなど情報提供を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや以降に寄り添えるように定期的カンファレンスを行い検討し対応している	職員は、日々のケアの中で、利用者との会話や行動から思いを把握している。家族からの情報も参考にし、その人の人生経験や生活歴等からも推測し、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人と話をしたりフェイスシートやサマリーを活用しこれまでの生活環境を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や介護日誌を活用し一日の過ごし方や心身の状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で本人や家族より出た要望や職員から出た意見を参考に介護計画を作成しケアを統一できるよう努めている	日頃から、職員間で情報共有を行いながら、個別支援も実施し、6か月ごとにケアプランの見直しが行われている。今後、利用者の状態によっては、家族の役割にも目を向け、関わる人がチームとなって、利用者の支援を計画する体制づくりを検討している。	利用者の支援計画について、家族を含めて、チームで共通理解できるよう取り組み、さらなるケアの質の向上に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌・特記録に記入し職員間で情報を共有しケアの実施や見直しに生かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に対応し状況に応じた柔軟な支援やサービスが行えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月理・美容の利用やレク介護士による脳トレ体操を開催し行事では地域ボランティアに依頼し歌や踊りなど楽しんでいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を行っている。本人家族の希望のかかりつけ医には定期的に受診を支援している。また急変時は適切な医療が受けられるよう支援している	利用者の希望する主治医が、継続治療と健康管理を行う体制である。月2回、協力医の往診を受けている利用者も多い。急変時は、入居時に搬送先を決めており、家族の意向に沿った対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定で個々の体調や職員の気づきを報告・相談し適切な看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入退院に関しての情報交換は、早期に医療機関との連携を取り電話やサマリーで情報を取り合い、職員間で情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時・入所後の状況に応じて家族の意向確認を行っている。終末期には家族との話し合いを密にし望まれる生活ができるよう支援している	協力医と事業所の看護師によって、健康管理を行い、看取りはしていない。利用者の重度化の兆候を見逃さないよう努め、家族への説明と病院受診を勧めている。緊急時は職員が付き添い、救急搬送を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えて職員研修で学習している。消防署からの救急対応の指導も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を消防署員より受けている。地震・水害時の避難に関しても地域との協力体制を築き災害発生時は避難場所として利用していただくようにしている	毎年、夜間も想定した火災訓練、救急救命訓練を消防署指導の下で実施している。地震や水害、土砂災害に対するマニュアルを作成し、水や食料の備蓄を備えている。災害時においては、地域の避難場所として関係する地区と連携し、さらに協力体制の強化に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や誇りを大切対応するよう心掛けている。言葉遣いや態度についても職員会議や職員間で話し合い確認しあっている	管理者は、職員の声かけや対応方法について、常に利用者のプライバシーや尊厳の保持に留意し、言葉遣いやトーンにも配慮するよう指導をしている。職員間でも意識の向上について話し合い、共通理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から本人の希望を少しでも引き出せるよう心掛け、自己選択できる場面を作り意思を尊重できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせた支援を心がけその日の体調や状態などを考慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備を一緒に行い、本人の好みの衣類を選んでもらったりしている。理・美容を利用し身だしなみを整える支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの旬の食事作りをできる範囲で一緒に行ったり、日々の食事の片づけ等をしている	毎食、法人の併設施設で調理し、出来たての食事を提供している。栄養バランスの取れた献立で、咀嚼、嚥下状態に応じた形態でも提供している。利用者は、片付けなど、出来る事を出来る範囲で関わり、おやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の水分量を記録し把握している。個々の状態に合わせた食事形態を工夫し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行い個々の状態に合わせ、声掛け・介助をしている。歯科衛生士による口腔内のチェック・指導管理も毎週行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンをチェックし個別に必要な支援に努めている	座位保持が可能な場合は、トイレでの排泄を基本としている。個々の状況に合わせて、おむつに頼らない排泄ケア計画を立て支援している。排泄用品も、利用者に状態に合った種類や組み合わせを工夫し、家族の費用負担軽減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、主治医・看護師のの指示に基づいて内服薬や座薬を使用、多めの水分摂取やヤクルトなどの提供を行い便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に応じて個浴・機械浴に入っている。季節に合わせて、しょうぶ湯・ゆず湯・ラベンダー風呂を提供し季節を感じていただいている	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望にも柔軟に応じている。立位が安定している利用者は、個浴を楽しんでいる。歩行自立度が低下している利用者が増え、法人の施設と共用ではあるが、安楽で安心の特殊浴槽を利用し、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて休んでいただき、自立している方は好きな時に休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬忘れや誤飲がないように職員同士で確認しあっている。状況により看護師に相談・支持を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業等個々に合わせてできることを提供し役割をもって生活していただいている。カラオケを楽しんだり、散歩等で気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて戸外での散歩を楽しんでもらっている。通院の必要な利用者には家族の支援により本人の希望に添いさせていただいている	1階は法人の併設施設であり、建物の裏手敷地で果実や野菜、花を育てている。利用者は散歩の際に、その成長を確かめ、時に収穫もしている。眼下を飛騨川が流れ、春には桜の花見ができる。家族の支援で希望する所に出かける利用者もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方はパン・ヤクルトの出張販売を利用したり離施設内の自販機で買い物やされている。管理できない利用者の方には必要なものを家族にお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合電話を使用させていただくこともあるが、職員が希望を聞き代行することもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共用空間の清掃をし、清潔・安全を心がけている。共用空間には利用者様が塗ったぬりえを壁にかけさせていただいたり、お雛様やクリスマスツリーを飾り季節感がわかるよう工夫している	共用空間には、季節の花や利用者と職員の共同作品が飾られている。北側一面が掃き出し窓で、長いベランダを歩くこともできる。山並みや谷川の水音など、どの場所からも自然が感じられる環境にある。また、利用者は、好みの椅子やソファなど、好きな場所でゆっくりと過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や利用者同士の相性などを考慮し席を決め適宜交代している。ソファには自由に座ってもらったり、横になり休んでもらったりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや馴染みのものを持ってきていただき、写真やレクリエーションで作った作品を飾り本人の好きな落ち着いた空間づくりに努めている	表札のリースで、部屋を間違えないよう工夫している。居室には馴染みの家具や使い慣れた物を配置し、写真や誕生日のカードを飾っている。中には仏壇を持ち込み、毎日手を合わせている利用者もあり、その人らしく落ち着いて暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人の「できること」「わかること」を活かし手すりや福祉用具を利用し安全で自立して過ごせるよう工夫している		